

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200551		
法人名	株式会社 ユタカ		
事業所名	花梨の郷		
所在地	千葉県花見川区千種町111-1		
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果市町村受理日	令和6年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年12月20日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

掲げた三つの理念を念頭に毎日丁寧なケアを心掛けています。医療面では、利用者に応じて住診医を取り入れて、歯科医は2週間に1回、看護師が週に1回訪問し、健康チェックを行う体制になっています。ケアの面では、利用者本位のケアを心がけ、ボランティアによる書道教室や各種企画の場で利用者が自分の能力を発揮する機会を各場面に設けています。コロナ禍以降、以前のように皆でお弁当を持ってピクニックに出掛けたり、日帰り遠足に行ったりは出来ていませんが、少人数で季節の花を見に行ったり、近隣のお散歩等で季節を感じられるよう心掛けております。入浴はいつでも可能で、リフト浴槽も備えています。利用者の重度化に伴い職員を一人増員してケアの万全を図っています。また、近所の託児所の子供との触れ合いなども企画しています。コロナが5類に分類されて以降、敬老会などホームでの企画に家族も参加していただけるようになりました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「家庭的な環境の中での穏やかな暮らし」「あなたらしさが発揮出来る暮らし」「地域の中で人と人の触れ合いを大切に」としており、職員に浸透している。自立支援では調理の手伝い、食器洗い、掃除、洗濯物干し、たたみなどを職員と一緒にこなしている。利用者の持てる力を活かす良い取り組みだと思われる。食事は週2回は献立を決め、職員と買い物に出ている。ホームは外出に力を入れており、リフトカーなどで初詣や鯉のぼり見学、花見など積極的に実施している。町内会との連携も良く、夏祭りに参加している。近隣住民とは散歩に出たときに声を掛け合う関係である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り玄関やリビングに掲示し、ご家族や面会者、職員にも見えるようにしている。管理者と職員は理念を実践につなげるよう共有している。	理念はホームページやホーム内に掲示して職員、利用者、家族に周知している。管理者は「おだやかな」をキーワードとして利用者と職員の笑顔を大切にしている。また、運営推進会議で管理者から説明をし、月次のフロア会議でも確認をしている。	
2	(2)	千葉県花見川区千種町111-1 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催のクリーン活動には利用者の参加は中止しているが、スタッフのみで参加している。コロナ禍以前よりは機会が減ってしまったが、散歩の際にあいさつしたり、お庭の見事なバラや菊の花等を見せていただいたりしている。	町内会及び自治会に参加しており、散歩に出ると近隣住民から声をかけてもらえる。書道のボランティアを受け入れ、地域の演歌歌手に来てもらうこともある。また地域からの介護相談もある。今後は小学生中学生の職場体験を再開したい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は積極的に入居者も自治会の行事や活動に参加したり、小中学校の体験教室を受け入れ認知症の人の理解や支援の方法をていたが、コロナ禍以降は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以降、運営推進会議は書面開催にしていたが、今年度は久しぶりに家族会が開催でき、近状報告や取り組み状況について直接話し合いが出来た。	運営推進会議は、敬老の日に対面で家族会と同時にあった。出席者は利用者、家族、民生委員、自治会担当者、医師、地域包括支援センター職員などである。入居者の状況、事故報告、行事予定などを報告しており、家族や職員に内容を共有している。	運営推進会議では議題として事故報告をしている。今後はヒヤリハット報告も追加し、その原因と対応を記載してもよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者が多いので、各区の社会援護課と連絡を取り合っている。またグループホーム協会を通じて実情や困難事例を報告したり、事故発生時には速やかに報告している。	担当課とは普段からやり取りをしている。地域包括支援センターとも運営推進会議で相談したり意見をもらっている。また、今後は介護相談員を受け入れたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修を通じ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせずアラームで対応している。不在の個人居室は他者の侵入防止の為施錠している。	「身体的拘束等の適正化のための指針」を策定し、年2回研修をして職員に周知している。身体的拘束等適正化委員会を3か月に1回開催して、現状について話し合っている。スピーチロックに関しては、注意喚起の一覧表を掲示して職員に意識付けをしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内外研修において高齢者虐待防止関連法令について学ぶ機会を設け、事業所内での虐待が見過ごされる事のないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から要望のあった方については支援させて頂いている。ホーム内研修でも取り上げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は丁寧に書面を見ながら行っており、可能であればご家族にはなるべく複数人での同席をお願いし、気になる事や相談等その場で解決するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防の為、面会についてはいくつか制限を設けさせて頂いているが、面会の際に近状報告をご家族の心配事を聞いたり、家族会の際に家族アンケートにご協力頂き、要望等があれば出来る限り応えるようにしている。	家族からの意見、要望は運営推進会議で家族代表から聞いたり、面会などで家族が来所した際にも聞くようにしている。また、行事ごとにアンケートを取っており、外出や行事に関する意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や半年に一度の個人面談を通じ、スタッフの要望や意見・希望を出しやすいようにしている。	月次のフロア会議は職員が意見を言う場としているが、管理者は職員から日常的に意見を聞くようにしている。情報共有は、アプリを使用してタイムリーにおこなっている。シフト調整や福祉用具の使用のタイミングなどは職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握し、個人面談の場で個々の努力・実績・勤務態度や勤務状況が給与に反映出来るようにしている。また、賞与・会議手当・皆勤手当等もあり、やりがいを持って働けるよう努めている。妊娠しても安心して働けるような環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、ホーム内外の研修(オンラインやYouTube活用)を受けたり、苦手なケアに対し再教育をしてステップアップにつなげている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	加入しているグループホーム協会を通じて同業者との交流や学ぶ機会があるが、感染症対策の為、相互訪問等は行なえていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人からも聞きとりを行なう事によって不安に感じている事や困っている事を直接聞く機会を設け、少しでも不安が軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人からも聞きとりを行なう事によって不安に感じている事や困っている事を直接聞く機会を設け、今後の方向性やご家族の要望等を話し合う事で少しでも不安が軽減できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の際に本人と家族からの話し合いを通じ、不安や要望を聞かせて頂き、何が改善されれば居心地良く暮らせるのかを見極め他サービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする中で、趣味や特技を発揮できる場面を作り、利用者自身から教えて頂いたり、相談したりと支え合えるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と共に利用者を支えるチームの一員として協力し合い、家族参加の行事を通じて楽しい時間を一緒に過ごしたり、利用者の心配事等も家族に相談し出来る事を取り入れ一緒に支え合える関係作りをしている。ラインを活用し、日々の様子を知って貰うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により多少の制限はあるものの、利用者はご家族と一緒に散歩や買い物、お墓参りや外泊等自由に出掛けたり、自室内で面会されている。必要に応じて抗体検査をお願いしている。	コロナ禍では面会は窓越しが基本であったが、現在は居室でも可能である。家族や知り合いからの年賀状には写真入りで一筆書いて返信をしている。コロナ禍以前は近隣の利用者の友人が来訪したりしていた。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や企画を通じ、利用者同士が関わり合い、出来る事・出来ない事をお互いに支え合える関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新盆や命日にはお花を贈ったり、独居になってしまわれるご家族には企画にお誘いしたりしている。季節の差し入れを頂く事もあり、お礼の連絡から企画へのお誘いにつながる事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共に過ごす中、会話や個別ケアを通じ思いや希望要望意向等をくみ取るよう努めている。言葉にする事が難しい方は、ご家族の意向やご本人の表情から読み取るようにしている。	日々の関りは、声掛け時にはゆっくりと話しかけ、「よいか嫌か」の確認をしてから支援するようにしている。得た情報は、フロア会議やタブレットで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境等の情報は申し送りノートを活用し、情報共有を図っている。また、ご家族や前ケアマネと連絡を取り合い、情報収集・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状況に合わせた1日の過ごし方や有する能力を見極め、その日の体調や気分につなげた過ごし方に関わりの中から把握に努め対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、ご本人からの言葉やご家族・必要な関係者との話し合いや職員からの情報収集・意見等を参考にし、必要に応じて見直しも行っている。	家族との関わりの中で、思いや意見を聞き、フロア会議等で話し合い、3か月に一度、家族や本人の意向を反映して介護計画を作成している。心身の状態に変化があった場合は、主治医、家族に相談して、随時見直しをおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ひとり一人の日々の様子や会話を詳細に記録に残し、気づきや工夫提案等を申し送りノートに記載する事で、情報共有・実践につなげている。介護計画作成や見直しにも活かしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や日常生活を通じての関わりの中で発見したニーズ等を共有化し、ご本人やご家族の意向や想いを実現できるように柔軟に取り組んでいる。(企画参加や自宅面会支援等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で多少制限はあるものの、利用者の顔馴染みの関係作りや様々な外出の機会を維持し、少しでも豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が選んだかかりつけ医の下で適切な医療が受けられるよう支援している。必要に応じて訪問診療や訪問歯科等を受けられるようにしている。	月2回かかりつけ医の往診があり、緊急時の対応体制も出来ている。専門医の受診は家族やホーム職員が対応し、情報を共有している。週1回、訪問看護師が健康状態を診ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週一回訪問した際、相談や近状報告を行ない情報共有している。ゆとりのある訪問時間を設けている為、一人ひとりしっかりと会話しながら見て貰え、バイタル確認だけでなく腸の動きから浮腫や足の指の間までしっかりと見て貰え利用者も安心している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者やご家族との情報交換や相談を行なっている。入院継続が困難と判断された場合には夜中でもお迎えに行き、ホーム内で対応が出来るよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について契約の段階で説明し同意を得ているが、利用者の状況に応じてご家族との話し合いの場を設けている。事業所として出来る事・出来ない事を十分に説明しながら方針を共有している。主治医・訪問看護・ご家族・職員で連携を取り、ご本人が安心出来るようチームとしての支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、家族には看取りの同意書をもっている。研修を実施し、フロア会議でも話し合いをしている。入院中に看取りになり、家族の希望でホームに戻った事例もあった。看取りが終わった後には振り返りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や初期対応に関してホーム内外の研修を行なっている。どのスタッフでも緊急時に対応出来るようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行なう事により、昼夜問わず利用者が安全に避難出来るようにしている。また、避難の際には緊急連絡網により近隣の協力が得られるようにしている。	マニュアルがあり、消防署の協力を得て利用者も参加して避難訓練を実施している。避難経路の確認もおこなった。食料品、飲料水は10日分備蓄している。自家発電機の購入も検討している。	BCP(事業継続計画)は作成中なので、早急に完成させて、職員に周知させる事が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や誇り・プライバシーを損ねる言葉掛け(失敗を知らしめたり指摘するような発言等)や対応について、会議で話し合ったりその都度、個々に話をしている。入浴や排泄時にも声のトーンや大きさ、誘い方等に配慮している。	全職員が利用者の尊厳を大切にし、声掛け時には、苗字で呼んでいる。排泄介助などは、声が大きくならないように配慮している。個人情報の管理は、タブレットにはパスワードを掛け、書類は鍵がかかる事務所で保管している。	開設時より20年たち、職員が利用者との親しいあまりに言葉遣いが馴れ馴れしくなる恐れがある。研修計画に接遇研修を入れて、職員全体で改めて意識する機会を持ってほしいと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しでも自分で選択したり決定出来るような機会を多く設けるようにしている。また日頃の会話の中から想いや希望をくみ取り、外食や外出企画に活かしている。 (全員での外食は出来ないが個別に企画している)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースにあった生活をして頂けるよう柔軟に支援している。就寝や起床時間・入浴時間・日中の過ごし方等もご本人の希望や体調・気分を考慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には定期的な訪問理容を使用して頂いている。また、起床時にはご本人様と一緒に好みの服(色)を選んで頂けるようにしたり、顔拭き・髭そり等も意識して行ない、身だしなみには配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り昼食を週2回取り入れ、利用者と一緒に買物に出掛けメニューを相談したり食材選びをしている。日常の生活でも簡単な盛り付けや片付け作業を一緒に行なうことにより、役割を見出し協力しながらもそれぞれの力を発揮できるよう支援している。	食材業者を利用して担当職員が調理している。手作り昼食の日には、献立を考えて利用者と一緒に買物に行っている。時にはおやつも一緒に作っている。個別に外食に行く事もある。訪問した日にはコップを洗う利用者の姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量や水分量が記録を通して確認しやすいようになっている。また、利用者の状態や好みにあわせた対応等、申し送りノートを活用し情報共有している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやその他の口腔ケアは利用者に応じて介助や見守りを行なっている。うがいが出来ない方については歯磨き粉ではなく液体歯磨きを使用したりその人にあった物を工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを記録により大まかに把握しているので、訴え時はもちろん、それぞれ随時さり気なく誘ったり介助をしている。自立の方も、色々工夫し排泄の有無等確認させて貰っている。	職員は排泄パターンをタブレットに記録して共有している。利用者の自尊心に配慮しながら、無理強いせず声掛けや誘導をし、出来る事はやってみよう自立支援に努めている。失敗した場合の声掛けにも留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体力筋力低下等の理由により屋外をどんどん歩ける利用者は減ってしまったが、少しでも気分転換を兼ねながら屋外を歩いて貰ったり、室内で体を動かせるよう支援している。便秘については主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や必要に応じていつでも入浴出来るよう支援している。好みの歌を流したり、入浴剤を選んで貰ったりし、入浴を楽しんで貰えるよう工夫している。シャワーキャリーやリフト浴も活用。	基本は同性介助とし、週2回位の入浴支援をしている。午前入浴が中心となっているが、希望により他の時間帯にも対応している。入浴したくないと言う場合は足浴をおこなう事もある。特に冬場は浴室と脱衣室の温度差がないように気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出や日常生活の中で身体を動かす機会を通じて、少しでも日中の活動量を増やし夜間眠れるように支援している。またなかなか寝付けず眠れない方については睡眠状況を主治医・ご家族に相談し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内用や副作用・注意点等薬剤師から説明があった事を申し送りノートで情報を共有。嚥下状態や認知状態を相談し、錠剤を粉碎対応して貰っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染症に十分配慮しながらも季節ごとの外出企画を大切にしている。ボランティアさんによるハーモニカ演奏や歌の会、絵手紙や生け花教室は休止となってしまっているため、散歩や外出企画で楽しみや気分転換を図っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出企画は継続している。車酔いされる方については、車椅子で行ける近隣の季節を感じられる場所を探しお出掛けしている。全員での外出は難しいが、個別対応で買物に出掛けたり、食事やお茶に出掛けしている。	近所に散歩に行き、バラの花を見せてもらうなど地域住民との交流がある。車で海に出掛けたり、年始には近所の神社に初詣に行く予定もある。ホームにはウッドデッキがあり、日光浴も楽しめる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持管理している利用者はいない。買物の際には、立て替柄対応で好きな物を購入して貰っている。自動精算機にお金を投入して貰ったりする機会は作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いの葉書をご家族に作成し投函したり、電話のやりとりも自由に出来るよう支援しているが、耳が遠い方も多いのでテレビ電話で顔を見ながら通話して貰ったり、スタッフが仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く生活できるよう明るさや配置等、配慮している。季節感のある壁面装飾を利用者と一緒に作成し飾ったり、外出企画の写真を掲示し、ご家族にも見て頂けるようにしている。	共用の空間は清潔に心掛け、ソファでくつろぐ利用者と職員が話している様子が見られた。廊下の窓を少し開けて、換気にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士で作業したり談話を楽しめるようにテーブルを分けたりまとめたりして対応。また、リビングのソファだけでなく廊下にもベンチや椅子を設置し、その時の気分に応じ好きな場所で寛いで貰えるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく馴染みのある家具を持ち込んで頂き、少しでも安心して居心地良く暮らせるよう工夫している。また、ご家族との写真や外出した時の写真を壁に飾っている。	家族と相談しながら、出来るだけ自宅にいた時と同じように過ごせるような居室作りをしている。可能な人は、午前のお茶の時間の前に職員と一緒に掃除をしている。居室は整理整頓されており、換気もおこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には大きな文字や写真で表札がある。(嫌がる人は掲示していない)廊下の夜間足元を照らすライトをつけ安全にトイレに行けるようにしている。途中覚醒の多い方についてはベッド下にセンサーを設置したり、掛け布団に鈴をつけ起き上がりを察知している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと